

就学前児保健研修会への事前質問など

- ① 室内ではなく、所庭でけいれんが起きた時の具体的な対応について。(基本、部屋では動かさずに横にして観察するが、所庭などで起きた際の動かしてよいタイミングや方法)

A: 可能な限り、けいれん中は移動を避けましょう。炎天下であれば、木陰などに移動して観察してください。

- ②熱性けいれんを起こしている際に場所を移動させても大丈夫なのか。
(例えば2階の教室で午睡後に熱性けいれんをおこし、1階にオフィスがあるので、そこに抱っこした状態で移動させても大丈夫か)

A: 1番同様で、発作中に抱っこして移動は避けてください。あわてて移動中におう吐して窒息しそうになっても気づかない事例があります。

- ③給食中など、食べている時にけいれんが起きてしまった場合の具体的な対応について。

A: 無理にごはんを掻き出さないようにしてください。顔を横に向けて自然に出るようにしましょう。

- ④園に熱性けいれん持ちの子がいる。何度か園でも起こっているが、けいれんか判断しにくいぴくぴくとした動きをするときがあり、それが生理的なものなのかどうか判断がつきにくく、救急車も呼びにくい状況にある。熱がその後あがれば熱性けいれんだと思うが、ほかに判断する方法はないか

A: 一番の目安は意識があるか否かです。視線が合い声を出していれば、けいれんではない可能性が高いです。入眠中に四肢がピクピクするのはほとんど生理的なミオクローヌスという不随意運動です。不安な場合はビデオに記録し、主治医に見てもらいましょう。

- ⑤過去に熱性けいれんを起こしたことがある子に対して注意すべき点。

A: 過去の発作が数分で自然に止まるタイプであれば心配いりません。逆にけいれんを起こしていないときは、ごく普通に接してください。

- ⑥けいれんを持っている子が保育園に登園するにあたり、保護者と共有しておくべき情報。

- ・ 予防的治療薬を処方されているか？
- ・ 救急搬送の目安は？
- ・ 救急搬送先は主治医もしくは最寄りの救急病院か？

⑦熱性けいれんなどが発生した場合の記録の取り方など、実際にどのようにしたらよいのか知りたい。

A: いつ（何時何分）、どこで、何をしている時に（午睡中や活動中など）、どんな（具体的な体の動き）、いつまで（けいれんが止まった時間）を記載してください。

⑧園児のけいれんがみられたら、救急車で病院に運ぶとマニュアル化している。救急車到着までの間、気道確保、衣服を緩める、痙攣状況・時間の測定などは行うが、その他にマニュアル化しておいた方が良いことはないか
また、危険なけいれんや、けいれんをおこす疾患などを教えてほしい。

A: 危険なけいれんは30分以上止まらないけいれん重積状態です。発作型では片側性けいれんは要注意です。乳幼児の場合、熱性けいれんが最多で、泣き入りけいれん、胃腸炎に伴う無熱性けいれん、低血糖によるけいれんが多いです。

⑨実際に現場で乳児がけいれんをおこした時の正確な対応方法。

A: まずはあわてないことです。安全な場所に寝かせ、応援を呼びましょう。一人は発作の様子を観察し、もう一人は状態を記録してください。

⑩37.5 度以上になったら必ずダイアップを使用するように指示が出ている2歳の子どもがいる。発達段階の子どもにダイアップを頻回に使用しても体への影響はないのか。

A: ダイアップは単回使用なら1日で体外に排泄されます。2回使用しても3日間で排泄されます。ですから、長期的な副作用はありません。使用後のふらつきや分泌物の増加には気を付けてください。

⑪30分くらいけいれんが止まらないという児童が2名いた。もしもに備えて慌てずに対応できる方法を教えてほしい。

A: そのようなけいれん重積の既往がある児は、早めの救急搬送を心がけましょう。主治医

と相談し、ブコラムなどの病院前治療薬を使用するか、直ちに救急車を要請するかなど、」事前に対応を決めておきましょう。

⑬けいれん発生後、救急車を呼ぶタイミング。

A: 通常は5分以上けいれんが続けば要請します。

⑭乳児のみの小規模園である。在園時間中の突然の高熱もあり、熱性けいれん等が起きた場合の職員の対応、押さえておくべきことなどを教えてほしい。

A: まずはあわてずに、けいれんは自然に止まり、直ちに命に係るものではないということを、職員全員が認識してください。その上で、冷静に観察し記録してください。

⑮過去に熱性けいれんの既往歴がない子への対応。

A: 過去にけいれんがなくても、5－8%の児はけいれんを起こします。どんな児に対しても通常は同じように接し、けいれん時は冷静に観察しましょう。

⑯0歳児の子どもで熱性けいれん・けいれんで搬送した子どもがいる。対応の仕方、保護者との連携、日頃の対応等、看護師とも連携をしているが、皆さんと困ったことなどの共有をしたい。

A: すべての職員が児に対する情報を共有し、あわてず対応できるように定期的に勉強会をしましょう。

⑰熱性けいれんを経験した子どもがたくさんいる。実際に保育中にけいれんを起こして救急搬送したこともある。熱性けいれんの子どもたちを預かるにあたり、保育園でのルールも決めている。だが、このルールに保護者が従ってくれず、高熱があってもお迎えに来てもらえず困ることがある。保護者にどのように理解を得るといいのか教えてほしい。

A: まずは個々の児のけいれんの既往、予防治療の有無(ダイアアップなど)を把握しておき、それに従い対応をマニュアル化し保護者の同意を取っておきましょう。

⑱【熱性けいれんの歴がある児童のお迎えについて】

当園では発熱の際のお迎えを38.5℃で依頼しているが、熱性けいれん歴がある児童に関しては37.5℃や38℃など少し低めの体温でもお迎えを依頼した方がいいか。

また、他の保育園の方が熱性けいれんの対応をどうされているか聞きたい。

A: 熱性けいれんは1回起こせばクセになるのではありません。何度も起こしたり再発のリスクが高い児はダイアップの処方を受けているはずです。そのような児は早めにお迎えを依頼すればよいですが、1回や2回起こしただけの児は、通常通り 38－38.5℃でお迎えがよいと思います。

⑱熱性けいれんの子どもが数名在籍しているので、いつも緊張している。園の看護師さんにシミュレーション訓練をしてもらっているが、実際に直面したことのある職員がいない。実際にけいれんの現場に直面した経験のある方に、マニュアルにない事象が起こって困ったこと等がもしあれば、話を伺いたい。

A: けいれん時に転倒してけがをしたり、食べ物を誤嚥して呼吸が苦しくなるなどが想定されます。いずれの場合も早めの救急搬送の適応でしょう。訓練時にけいれんのビデオを全員で観るのもよいと思います。